

経営比較分析表（令和4年度決算）

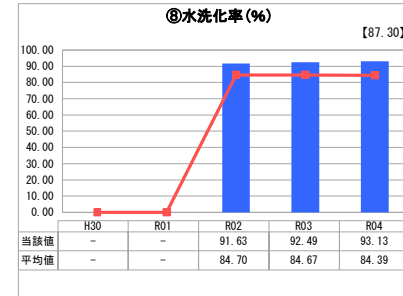
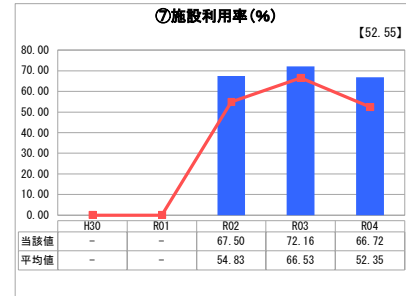
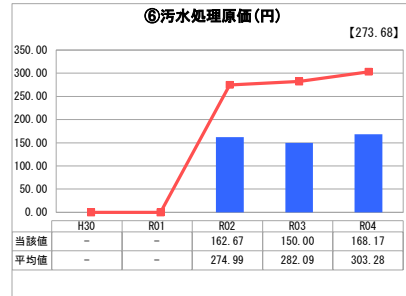
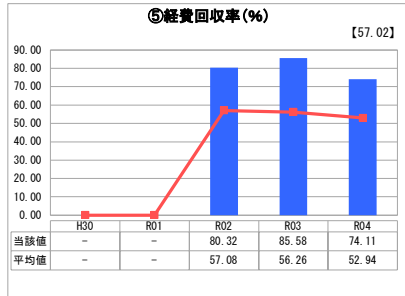
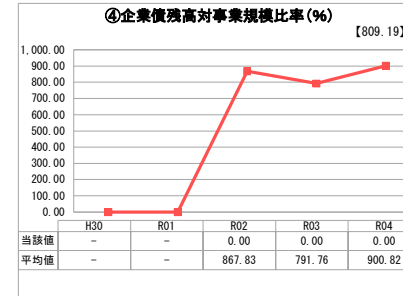
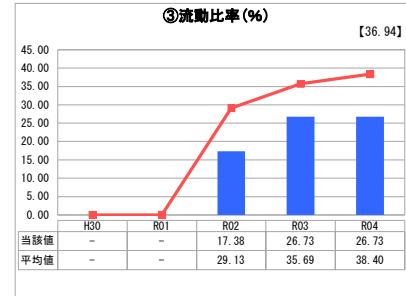
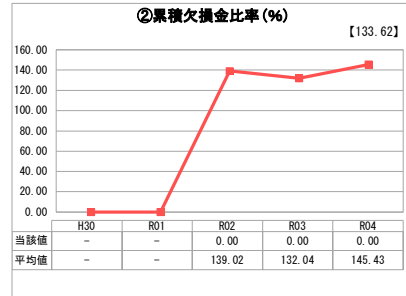
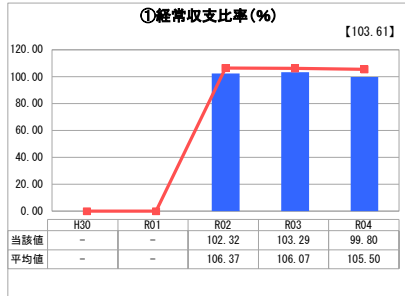
山形県 村山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	68.59	5.14	51.48	3,300

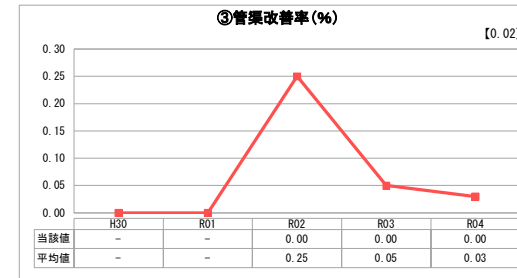
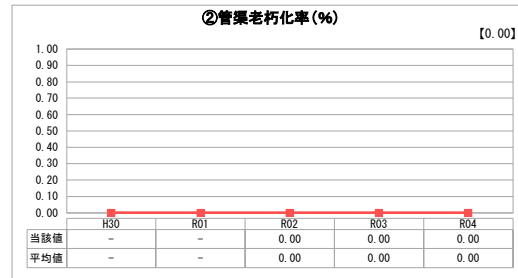
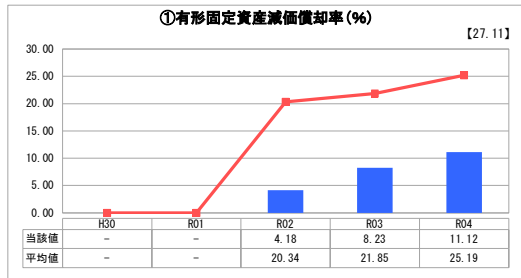
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,232	196.98	112.86
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,136	1.03	1,102.91

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率
料金改定後の経過措置により100%を下回っている。多くを一般会計からの繰入金で賄っており、維持管理費の削減など経営改善に務めていく必要がある。
- 累積欠損比率
0%であり、経営の健全性が確保されている。
- 流動比率
企業債償還金等が多く低い値になっている。新たな企業債の発行等を抑えていく必要がある。
- 企業債償還高対事業規模比率
企業債は原則一般会計の負担としているため表示されない。
- 経費回収率
類似団体平均より高い水準にあるが、繰入金に依存した経営状況にあり、汚水処理費用の削減等に取り組む必要がある。
- 汚水処理原価
類似団体平均より低い値となっているが、引き続き処理経費削減等に務めていく必要がある。
- 施設利用率
類似団体平均より低い値となっているが、引き続き処理経費削減等に務めていく必要がある。
- 水洗化率
年々少しずつ上昇している。引き続き未接続世帯への普及活動を継続していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

当市における農業集落排水事業は、平成9年に供用を開始し、管渠については法定耐用年数を経過しているものはないが、終末処理場については、耐用年数を経過している設備もある。施設の修繕・更新工事は、機能強化対策に沿って順次行っていく。ただし、修繕・更新工事については、多額の費用が生じることから、国の支出金や企業債によって財源を確保することとなるが、経営を圧迫することが予想されることから、経営改善の実施に取り組む必要がある。

全体総括

現在、農業集落排水事業は終了しているため、新規の整備は無いものの、過去の元利償還金が大きな負担になっており、一般会計からの繰入金があれば成り立たない経営状況にある。今後は元利償還金の下がるが、より一層の支出の抑制、収入の増を図り、繰入金を減少させていく。施設の修繕・更新等は、機能強化対策に沿って、財政状況を考慮しながら進めていく。収入については、現在の料金体系は戸数、世帯人数制だが、今後は従量制への移行及び料金改定を行い経営の健全化へ取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。